

基本施策Ⅱ	グローバリ化に対応した食の安全安心の確保
施策の方向10	グローバリスタンダードを踏まえた事業者の育成・支援 ★
具体的な取組み	(40)国際基準であるHACCP導入支援 HACCPの概念に基づいた衛生管理体制や自主衛生基準の導入、自主検査の実施、記録の作成・保存等に関し、事業者に対して必要な助言等を行い、HACCP導入を推進します。
①概要	国のHACCP制度(総合衛生管理製造過程、対米・対EU輸出水産食品加工施設)の導入等、自主衛生管理の向上を検討している事業者からの相談に応じ、技術的な助言等を行う。 また、と畜場におけるHACCP導入の推進を目的として、HACCP導入・検証会議や、HACCP衛生講習会等を開催する。
②推進指標	
③用語解説	《国のHACCP制度》 ・総合衛生管理製造過程：食品衛生法に規定。牛乳や食肉製品等、特定製品の製造過程が承認対象。 ・対米・対EU輸出水産食品加工施設：アメリカやEUへ水産食品を輸出する施設は、HACCPによる管理を行うことが条件となっており、これを認定する制度。

【令和2年度事業実施状況】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食品衛生監視機動班等事業費(業務衛生課) ・国のHACCP制度を導入している事業者が作成したHACCPプランの妥当性を判断し、必要な助言、現地指導を行うとともに、国と連携して監視を行った。 〔県内施設数(松山市保健所管内を除く。)] 総合衛生管理製造過程承認施設 1施設 対米輸出水産食品取扱認定施設 9施設 対EU輸出水産食品取扱認定施設 3施設</li> <li>●と畜検査費(業務衛生課) ・HACCPの導入を検討している食品製造施設からの相談に応じ、必要な助言を行った。</li> <li>●平成29年度、対象と畜場がISO22000を取得したことから、引き続きHACCPに準拠した衛生対策を講じるよう確認・指導を行った。</li> </ul>
---------------	--

【令和2年度取組みの評価】	(業務衛生課) 国のHACCP制度を導入している施設に対し、国と連携して助言・指導を行い、事業者の自主衛生管理の推進に寄与した。 また、検討会や講習会の実施により、と畜場におけるHACCP導入の推進を図ることができた。今後も監視指導を徹底するとともに、職員の手導力を高めて自主衛生管理に関する助言等を行い、事業者の自主衛生管理体制の構築を支援していく。
---------------	--

基本施策Ⅱ	グローバリ化に対応した食の安全安心の確保																																																												
施策の方向10	グローバリスタンダードを踏まえた事業者の育成・支援 ★																																																												
具体的な取組み	(41)輸出水産食品に対する検査、衛生証明の実施 県保健機関において輸出水産食品に係る事業者の自主検査を受託して実施するとともに、県保健所において衛生証明書を発行することにより、県内水産物の安全性確保はもとより、県内事業者が迅速に輸出できるよう支援します。																																																												
①概要	(業務衛生課) 衛生環境研究所において、輸出水産食品の衛生証明書の発行要件となる自主検査を、事業者から受託して実施する。 県保健所において、輸出水産食品に係る衛生証明書を、事業者からの求めに応じて発行する。 (漁政課) 水産研究センター及び栽培資源研究所において、輸出水産物に係る放射性物質検査証明書を、事業者からの求めに応じて発行する。																																																												
②推進指標	【輸出食品の自主検査受託件数】 件数増により支援活動の指標となる。																																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>(H25)</th> <th>(H26)</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>80件</td> <td>—</td> <td>80件以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>69件</td> <td>100件</td> <td>114件</td> <td>75件</td> <td>88件</td> <td>111件</td> <td>103件</td> <td>111件</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>(H25)</th> <th>(H26)</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>300件</td> <td>—</td> <td>300件以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>273件</td> <td>287件</td> <td>362件</td> <td>633件</td> <td>760件</td> <td>602件</td> <td>612件</td> <td>908件</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	目標			—	—	—	—	80件	—	80件以上	実績	69件	100件	114件	75件	88件	111件	103件	111件		年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	目標			—	—	—	—	300件	—	300件以上	実績	273件	287件	362件	633件	760件	602件	612件	908件	
年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3																																																				
目標			—	—	—	—	80件	—	80件以上																																																				
実績	69件	100件	114件	75件	88件	111件	103件	111件																																																					
年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3																																																				
目標			—	—	—	—	300件	—	300件以上																																																				
実績	273件	287件	362件	633件	760件	602件	612件	908件																																																					
③用語解説	【輸出食品に係る衛生証明書発行件数】 件数増により支援活動の指標となる。																																																												

【令和2年度事業実施状況】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●衛生試験検査事業費(業務衛生課) ・衛生環境研究所で、輸出水産食品に係る自主検査を事業者から受託して実施した。 〔令和2年度受託件数〕 韓国向け 111件</li> <li>●食品衛生監視機動班等事業費(業務衛生課) ・県保健所において、輸出水産食品に係る衛生証明書を、事業者からの求めに応じて発行した。 〔令和2年度発行件数〕 中国向け 814件、ベトナム向け 75件、EU向け 19件 計908件</li> <li>●水産物輸出促進事業費(漁政課) ・水産研究センター及び栽培資源研究所において、輸出水産物に係る放射性物質検査証明書を事業者の求めに応じて発行した。 〔令和2年度発行件数〕 中国向け 919件、台湾向け 415件</li> </ul>
---------------	---

**【令和2年度取組みの評価】**

(業務衛生課)

自主検査を受託するとともに、政府間協議により相手国から添付を求められている衛生証明書を速やかに行うことにより、県内事業者の負担軽減と、県内水産物の安全の確保、迅速な輸出促進に寄与することができた。

また、政府間協議に基づく証明書様式等の取り決めがない場合においても、事業者からの求めに応じて、保健所が衛生証明書の発行に柔軟に対応した。

今後、関係部局と連携して、県内水産物の安全確保を図り、県内事業者が迅速に輸出できるように協力していき。

(漁政課)

水産物の放射性物質検査を迅速に行うことにより、県産水産物の輸出規制に対処する事ができた。今後も、関係部局と連携して、県内水産物の輸出拡大に寄与するよう協力を行っていきたい。

**基本施策Ⅱ**

グローバル化に対応した食の安全安心の確保

グローバルスタンダードを踏まえた事業者の育成・支援 ★

**具体的な取組み**

**(4)2 輸出農産物に対する残留農薬検査の実施**

輸出相手国の残留農薬基準に適合した農産物の輸出促進を図るため、必要に応じて県が残留農薬検査を実施します。

**①概要**

台湾へのかんきつ等の輸出促進に資するため、当該国の残留農薬基準に則した自主検査を実施する。

**②推進指標**

**【輸出農産物の残留農薬検査件数】**

検査件数の維持により、安全性の確認状況の指標となる。

年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
目標							20件		20件
実績	—	21件	24件	5件	4件	13件	10件	12件	

**③用語解説**

**【令和2年度事業実施状況】**

- 農薬適正使用推進事業費(農産園芸課)
- ・ 台湾の残留農薬基準に適合させるため、かんきつ等の輸出前に農林水産研究所において残留農薬の自主検査を行った。
- 〔分析対象農産物・検査件数〕
- 温州みかん・3件、甘平・3件、清見・1件、不知火・1件、ぶどう・1件、柿・2件、ブルーベリー・1件

**【令和2年度取組みの評価】**

(農産園芸課)

自主検査の結果、国内の残留農薬基準及び輸出相手国の残留農薬基準に適合しない成分は検出されなかった。

基本施策Ⅱ	グローバル化に対応した食の安全安心の確保
施策の方向10	グローバルスタンダードを踏まえた事業者の育成・支援 ★
具体的な取組み	(43) 県内産農水産物の放射性物質安全確認の検査 空間濃度を測定しているモニタリング地点で、基準を超える数値が検出された場合、県下各地において農林水産物の放射線量の検査を実施します。

①概要  
(農産園芸課)  
空間濃度を測定しているモニタリング地点で、基準を超える数値が検出された場合、県下各地において農産物の放射線量の検査を実施し、安全性を確認する。  
(水産課)  
本県主要水産物について、愛媛県原子力センターにおける海産物の放射能調査及びモニタリングポスト空間放射線量率の調査において、検査基準値を超えた場合に放射性物質の検査を実施し、安全性を確認する。

②推進指標

【県内産農産物の放射性物質安全確認検査件数】  
安全確認検査実施要領で定める件数の実施により、安全性確認効果の指標となる。

年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
目標	—	20件	—	—	—	—	20件	—	5件
実績	20件	20件	20件	20件	20件	0件	0件	0件	0件

【県内産水産物の放射性物質安全確認検査件数】  
安全確認のための検査要領で定める品目数等の実施により、安全性確認効果の指標となる。

年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
目標	—	10件	—	—	—	—	8件	—	8件
実績	10件	10件	10件	8件	8件	0件	0件	0件	0件

③用語解説

【令和2年度事業実施状況】  
●県産農林水産物放射性物質検査費  
(農産園芸課)  
モニタリング地点において検査基準値を超えなかったため、検査は実施していない。  
(水産課)  
検査基準値を超えなかったため、検査は実施していない。

【令和2年度取組みの評価】  
(農産園芸課)  
「県産農作物の放射性物質調査実施要領」に基づき、モニタリング地点における検査基準値を超えなかったことを確認した。今後も検査基準値を超えた場合には、放射性物質検査を実施することにより、県内農産物の安全性を確保する。  
(水産課)  
「異常時における県産水産物放射性物質検査要領」に基づき、放射性物質の検査基準値を超えなかったことを確認し、県産水産物の安全性を確保した。今後も検査基準値を超えた場合には、放射性物質検査を実施することにより、水産物の安全性を確保する。

基本施策Ⅱ	グローバル化に対応した食の安全安心の確保
施策の方向11	輸入食品の安全確保の充実 ★
具体的な取組み	(44) 輸入食品の監視指導及び収去検査の実施 県内に流通する輸入食品について、監視指導を行うとともに計画的に収去検査を実施します。また、輸入時対策を担当する国と日頃から情報共有に努めるとともに、検疫所における監視指導体制の強化等について要望します。

①概要  
県内に流通する輸入食品について、残留農薬、食品添加物、遺伝子組換え作物の混入等の収去検査を実施するとともに、適正な表示の記載状況を監視する。

②推進指標

【輸入食品の収去検査実施検体数】  
検体数維持により安全性確認状況の指標となる。

年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
目標	—	—	—	—	—	—	125件	—	125件以上
実績	125件	123件	125件	125件	109件	101件	32件	29件	—

③用語解説

【令和2年度事業実施状況】  
●食品衛生監視機動班等事業費(業務衛生課)  
●食品等検査費(業務衛生課)  
食品衛生法に基づき、県内に流通する輸入食品について、計画的に、残留農薬、食品添加物、遺伝子組換え作物の混入等の収去検査を実施した。  
令和2年度輸入食品等収去検査件数:29件、うち違反件数0件

【令和2年度取組みの評価】  
(業務衛生課)  
食品の季節的な需給動向等を勘案した年間計画により販売店から輸入食品を収去し、安全性を確認した結果、令和2年度は輸入食品の違反は確認されなかった。  
今後も、これらの取組みを継続することにより、県内に流通する輸入食品の安全確保に努める。

基本施策Ⅱ	グローバル化に対応した食の安全安心の確保																														
施策の方向11	輸入食品の安全確保の充実 ★																														
具体的な取組み	(45) 輸入食品の検査体制の整備 県検査機関において、輸入食品に係る事業者の自主検査を委託して実施します。																														
①概要	食品の安全性を確保し、食品等の貿易貨物の輸入促進を図るため、衛生環境研究所において、食品の検査体制を整備しており、輸入事業者の行うべき自主検査を委託して実施する。																														
②推進指標	【輸入食品の自主検査受託件数】 検査維持により安全性確認状況の指標となる。																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>(H25)</th> <th>(H26)</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>95件</td> <td>—</td> <td>60件以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>95件</td> <td>78件</td> <td>67件</td> <td>56件</td> <td>66件</td> <td>53件</td> <td>51件</td> <td>54件</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	目標	—	—	—	—	—	—	95件	—	60件以上	実績	95件	78件	67件	56件	66件	53件	51件	54件	
年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3																						
目標	—	—	—	—	—	—	95件	—	60件以上																						
実績	95件	78件	67件	56件	66件	53件	51件	54件																							
③用語解説																															

【令和2年度事業実施状況】

- 輸入食品検査体制整備事業費(業務衛生課)
- ・輸入食品に係る自主検査が円滑に行えるよう、衛生環境研究所において、輸入事業者の行うべき自主検査を等検査受託して実施した。

【輸入食品等検査受託状況】

検査検体数:54件、検査項目数:121件  
主な輸入国:中国、タイ、ベトナム  
主な貨物:魚介乾製品、魚介類加工品、種実加工品

【令和2年度取組みの評価】  
(業務衛生課)

食品等を輸入する際の検査を行うことのできる民間の登録検査機関のない本県において、衛生環境研究所で検査体制を維持することにより、輸入事業者の利便性と食品の安全性を確保することができた。

基本施策Ⅲ	相互理解と協働による食の安全安心の確保																														
施策の方向12	情報提供の充実																														
具体的な取組み	(46) 食の安全安心総合ホームページの運営 食を取り巻く環境の変化に応じて消費者ニーズに合った情報を迅速かつ正確に提供するため、食の安全安心総合ホームページ「えひめ食の安全・安心情報ホームページ」を運営します。																														
①概要	閲覧者が必要な情報を容易に入手できるように「えひめ食の安全・安心情報ホームページ」で食の安全安心に関する様々な情報を広く発信する。																														
②推進指標	【食の安全安心総合ホームページ閲覧件数】 閲覧数の増加が県民への情報提供充実の指標となる。																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>(H25)</th> <th>(H26)</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td>—</td> <td>40,000件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>40,000件</td> <td>—</td> <td>15,000件以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>25,649件</td> <td>22,687件</td> <td>25,855件</td> <td>22,914件</td> <td>18,159件</td> <td>14,832件</td> <td>9,138件</td> <td>11,718件</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	目標	—	40,000件	—	—	—	—	40,000件	—	15,000件以上	実績	25,649件	22,687件	25,855件	22,914件	18,159件	14,832件	9,138件	11,718件	
年度	(H25)	(H26)	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3																						
目標	—	40,000件	—	—	—	—	40,000件	—	15,000件以上																						
実績	25,649件	22,687件	25,855件	22,914件	18,159件	14,832件	9,138件	11,718件																							
③用語解説	【参考】食の安全安心総合ホームページ内総閲覧件数 88,376件 89,767件 99,261件 93,365件 79,345件 83,131件 67,817件 86,152件																														

【令和2年度事業実施状況】

- 食の安全・安心推進事業費(業務衛生課)
- ・食の安全安心に関する様々な情報を提供する「えひめ食の安全・安心情報ホームページ」を運用した。
- ・緊急食品情報(自主回収報告、食中毒発生)や国からの注意喚起情報を迅速に掲載し、広く注意喚起を行った。
- ・食の安全安心に関するイベントや講座等の情報、国・県の制度改正に関する情報、食の安全安心県民会議等の開催結果、食の安全安心に関する施策の実施状況、愛媛県HACCP制度の認証状況や食品衛生監視指導結果等について同ホームページにタイムリーに掲載し、積極的な情報提供を行った。
- ・令和2年度「えひめ食の安全・安心情報」ホームページ(トップページ)閲覧件数:11,178件  
(「えひめ食の安全・安心情報」内の全ページの総閲覧件数:86,152件)

【令和2年度取組みの評価】  
(業務衛生課)

タイムリーな情報の提供に努めた結果「えひめ食の安全・安心情報」トップページの閲覧件数は前年度より約2千5百件、配下ページの総閲覧件数は約1万8千件の増加となった。

閲覧件数は大きな食中毒事件や食の安全安心を揺るがす事案が発生した際に増加する傾向があるが、緊急時よりも、日頃から食の安全安心に興味を持っていただけたこと、正確で分かりやすい解説等発信内容の工夫に努めるとともに、より簡単にアクセスできるよう発信方法を工夫し、更なる利用を呼びかける。